

紫香楽宮企画展

「聖武天皇と紫香楽宮の985日」

われ
～朕、近江国甲賀郡紫香楽村二行幸セン～
みゆき

会場 あいこうか市民ホール 展示室

会期 平成24年9月1日(土)から9月12日(水)

9:00-16:30 (月曜日休館・入場無料)

歴史フォーラム

「解き明かされた紫香楽宮の実像と謎に迫る」

場所 あいこうか市民ホール (申込不要 参加費無料)

日時 平成24年9月9日(日)

午後1時30分～午後4時20分(開場午後1時)

パネリスト 栄原 永遠男 大阪市立大学名誉教授
黒崎 直 富山大学名誉教授
甲賀市教育委員会 担当職員
司会 近藤 滋 元、滋賀県立安土城郭研究所長

日程

13:30-13:35 主催者挨拶
13:35-13:55 基調報告Ⅰ 「地中の中の紫香楽宮-発掘調査の成果-」 市担当職員
13:55-14:25 基調報告Ⅱ 「紫香楽宮と大仏造立の謎-遺跡立地から見た宮と寺-」 黒崎 直 先生
14:25-14:55 基調報告Ⅲ 「文献からみた紫香楽宮」 栄原 永遠男先生
14:55-15:05 《 休憩 》
15:05-16:20 歴史フォーラム 「解き明かされた紫香楽宮の実像と謎に迫る」

お問合せ 甲賀市教育委員会 歴史文化財課 ☎ 0748-86-8026

今年は、天平 14 年(西暦 742 年)に聖武天皇が紫香楽に行幸してから 1270 年にあたり、また、発掘調査が開始されてから 30 年目を迎えます。

紫香楽宮では奈良の東大寺に先駆けて「大仏建立の詔」が発せられ、天平 17 年(西暦 745)には日本の首都になりましたが、短期間でその役割を終えた幻の宮です。

調査前には、無計画で短期間の仮宮に過ぎないと考えられていた紫香楽宮は、これまでの地道な考古学的成果と文献史料の見直しによって、その規模も内容も想像をはるかに越えたものであり、出土品には、日本で 2 例しか確認されていない『万葉集』編纂以前に書かれた「万葉歌木簡」の発見等、日本の歴史を考える上で貴重な発見が多くありました。

今回は、その成果を広く知っていただくため、研究の最前線で指導されている研究者による歴史フォーラムをはじめ、聖武天皇が紫香楽で過ごした 985 日間に何が起こっていたのかを出土品や遺構の写真パネルで紹介します。

歴史フォーラム同時開催イベント(ロビー展)

☆ 子ども向けイベント「和同銭を造ろう！」

開催時間 午前 11 時～午後 2 時 30 分(定員になり次第終了。)
 定員 先着 20 名
 参加費 100 円(材料費 鋳造したお金は 1 枚持ち帰りできます。)

☆ 紫香楽宮ゆかりの地 特産品PR展

開催時間 午前 11 時～午後 1 時 30 分
 内容 雲井地域の農産物や朝宮茶の試飲、販売等、
 普段お店では見かけない特産品の販売ブースもあります。

列車時刻表

JRびわこ線・草津線		近江鉄道	
京都駅	草津駅	貴生川駅	城南駅
11:51	12:14		
12:00	12:20		
	12:25	12:49	
		12:55	12:59

信楽高原鐵道株式会社

信楽駅	雲井駅	貴生川駅	城南駅
11:54	12:01	12:17	乗換え
		12:55	12:59

自家用車での来場もできます。

主催 甲賀市教育委員会
 後援 滋賀県教育委員会 ・ 公益財団法人滋賀県文化財保護協会
 信楽高原鐵道株式会社 ・ 信楽観光協会 ・ 雲井自治振興会

